

保育学生の造形表現における苦手意識克服のための授業実践

－造形表現に関する意識調査からの考察を通して－

山 中 慶 子

A Teaching Report for Overcoming Weaknesses in Artistic Expression of Students
at the Early Childhood Educator Training School

－Through Consideration from the Attitude Survey of Artistic Expression－

Keiko YAMANAKA

キーワード：苦手意識、図工、美術、造形表現

I 研究の背景

1. はじめに

1-1. 保育における領域「表現」

『幼稚園教育要領』「第1章総則 第1幼稚園教育の基本」には「教師は、幼児と人やものとの関りが重要であることを踏まえ、教材を工夫し、物的・空間的環境を構成しなければならない。」と記されている。また「第2章 ねらい及び内容 表現3内容の取扱い」において「(3)生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具を整えたり、様々な素材や表現の仕方に親しんだり、他の幼児の表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること」と記されている¹⁾。

筆者は、実際に保育の現場に携わり、保育の活動の中で保育者が造形に関わる時間の割合は非常に高いと感じた。子どもの製作活動だけではなく、室内の環境整備、壁面、お誕生会、ファミリー行事のプレゼント作り、入卒園に関わる製作など、保育者は年間を通して造形活動に取り組むこととなる。幼児教育の領域表現は、表現する過程や表現を楽しむことが基本であり、芸術としての作品作りに重きを置くわけではない。しかし、保育者

が造形活動に関わる際の知識や技術は、幼児に適した環境を整えるという視点からも必要であると考える。中島(2019)は、「幼児の表現意欲を増幅し、創造性を育むきっかけを与えるためには、保育者自身が表現を楽しむ、あるいは表現の本質をとらえなければならない」と述べている²⁾。

幼児教育に指定された教科書はない。領域表現では、子どもたちの成長や興味関心に合わせて、保育者が活動を決め、用具や素材を決めていかねばならない。子どもたちの現状を把握し表現できる場を作る保育者の知識や創造性が不可欠である。

また、造形活動を計画する際には、教育目標の達成を念頭におかねばならない。「どの時期に、どのような用具を使って、どのような素材を用いることが子どもの成長につながるのか」といった課題も考慮しておかねばならない事項である。

槇(2016)は「幼児期の表現は小学校以降の造形美術表現の萌芽である。色、形、材料によってイメージを形にする豊かな自己表現体験を保証することが表現意欲や表現媒体に対する興味関心を育み、将来に影響を与えると考えられる。造形技能の獲得は主なねらいではないが、表現力は体験から得られ、表現を楽しむために必要なものである」としている³⁾。幼児期の「表現」は、育ちの

中で子どもたちの自己表現力を支えることとなる。その萌芽の時期を保証し援助するのが、保育者の知識と技術、創造性である。

自分自身が表現することを楽しみ、子どもたちの成長や興味関心に合わせて、表現する意欲を十分に発揮できる環境の設定、創意工夫する力が保育者に求められるといえる。

1-2. 保育者養成校における造形表現指導

保育者養成校において、造形指導の教科は様々な名称で開講されている。本学の学生は、「子どもと表現（造形）」（1年前期）、「子どもの絵と製作（指導法）」（1年後期、2年前期）で造形の基礎や指導法を学ぶ。

上田ら（2019）は「保育者養成校における造形表現は自己表現の表出が目的であり、保育における専門技術と表現の楽しさの指導である。保育者として、幼児が自由な表現をするための道具材料を扱う正しい知識と技術力を身につけるのだが、表現する楽しさを自ら行う表現力が必要である」としている⁴⁾。しかし、十分な知識や技能を習得出来ずに現場で働く保育者や、表現することを楽しいと思えない保育者がいることも否めない。

中島は保育士同士が共同制作を行う実践研究で「普段の保育では保育者は担任として自分のクラスの幼児の成長発達に積極的に関与し責任ある保育をしているが、一方で絵画及び造形指導における不安や葛藤などを抱えている保育者が一定数存在することが明らかになった」としている²⁾。現場で働く保育者は、自ら勉強会や研修会で学び、子どもとの関わりの中で指導方法を確立していくことが望ましいが、「表現する楽しさを感じ、自ら表現していく力」は、幼児期～保育学生時代の造形表現に対する捉え方や経験によるものが大きいと推測される。

筆者の経験から、造形活動が「好き」「得意」な保育者は、保育雑誌などの製作見本を自ら工夫し、より子どもたちの表現を広げるような活動、または子どもたちの姿から興味関心を捉え造形活動に発展させようという姿が見受けられる。子どもたちの育ちや興味関心に寄り添って工夫をしな

がら活動を行えることは、領域表現のねらいの達成に必要不可欠である。

まず、保育学生が「造形活動を好きである（になる）」ことが保育者養成校における造形表現指導において基本となる事項であり、そのうえで幼児造形に必要な知識・技術の習得を目指す必要がある。

1-3. 苦手意識に関する先行研究

降籬（2016、2017）は、小学生から大学生までの図画工作・美術に関する実態調査を行い、「苦手意識については、小学校段階では2割未満で苦手意識は少ないが、中学生になると5割近くに増加し、大学生になるとさらに増加して6割近くになる」との結果を得た⁵⁾。また、「苦手意識のある児童・生徒には、うまく上手に作品を作らねばならないという意識が強いのに対して、苦手意識のない児童・生徒は、うまく上手にできるという技術面よりも表現の楽しさや面白さがその理由になっていた」とし、小学校教員養成課程の講義における有効な教育コンテンツを追求している⁶⁾。

保育者養成校の学生を対象にした研究では、香月（2017）が、「幼少期にうけた他者からの評価と、その後の造形表現に対しての「好き」「嫌い」は一定の関連がある」とし、「既に造形表現を苦手と感じている学生は、他者からの評価を気にして、自由に、思い切り自分の表現ができずにいる傾向がみられる」としている⁷⁾。上田ら（2019）は、保育系養成校の造形授業において「近年、学生の製作状況として想像、創作することが弱低下している。（略）苦手意識と表現することに自信のないこと、他人の目を意識し自ずと隠す傾向も強くなっている」と指摘している⁴⁾。

幼少期からの図画工作・美術への苦手意識が、保育者養成校での造形表現授業の嫌いな原因、または保育者となることへの不安要素となっていると推測される。保育者養成及び教員養成校の造形表現では、学生が抱く苦手意識に直面し、その解消に向けて試行錯誤しているのが現状である。

一方、秦田（2017）は「保育者養成学校の学生たちは苦手意識を軽減しやすい環境にある」と述

べている。保育者に求められるのは、高度な技術ではなく、「表現の喜びを共感すること」、「使い道具の選別や管理」、「子どもたちへの言葉かけ」だからであるという⁸⁾。

保育学生の苦手意識を解消する手立ては、芸術としての高度な造形術の習得ではなく、保育者として表現することの面白さや楽しさを感じる体験であることが上記の研究によって明らかにされた。

2. 研究の目的

本研究は、2年間で保育士としての造形に関する知識・技能を習得し、表現することを楽しいと思える保育士の育成が目的である。そのためには、保育学生の造形表現に関する意識調査を行い、苦手意識を持っている者に対してその克服の手立てとなる授業内容を検討していかなければならない。まず、苦手意識の要因となっている項目を明確にすることが重要だと考える。

①本稿（Ⅱ）では、造形表現に関する意識調査を行い、造形に関して保育学生が抱える課題を挙げる。また、苦手意識の要因となっている事項を探り、今後の保育学生への造形指導にどのように活かしていくか示唆を得る。

②本稿（Ⅲ）では、調査結果から考察された事項を考慮し、学生自身が自ら考え、工夫し、表現しようという意欲・姿勢を育てる授業を実践し結果を得ることを目的とする。

Ⅱ 造形表現に関する意識調査

1. 研究方法

本学の保育学生の造形に関する意識を探るため、1年生94名、2年生98名に無記名のアンケート調査を行った（付録1）。

2. 調査結果

高校時の造形体験の有無を調査した（図1）。複数科目を選択している場合は、どちらも記すようにした。高校時の選択科目は音楽が最も多く、1年生は62人、2年生は40人であった。造形に関する科目（美術・工芸）は、1年生が25人、2年生が16人であった。調査人数から、1年生69人・

2年生82人にとって、造形体験は高校3年間のブランクがあり、中学校時代以来の経験となることが分かった。以下、調査結果を質問項目毎に示す。

2-1. 図工・美術への嗜好

「小さいころから図工・美術は好きであったか」の問いには、大好き・まあまあ好き・普通・好きではない・嫌い、の5段階で回答を記すようにした（図2）。1年生94人のうち、大好き15人（16%）、まあまあ好き30人（32%）、普通33人（35%）好きではない13人（14%）、嫌い3人（3%）であった。2年生98人のうち、大好き17人（17%）、まあまあ好き25人（26%）、普通35人（36%）、好きではない15人（15%）、嫌い6人（6%）であった。どちらの学年も、4割以上の学生が「大好き・まあまあ好き」と答えているのに対して、約2割の学生は「好きではない・嫌い」という回答結果となった。

2-2. 「好きではない」「嫌い」な理由

複数回答可とし、あてはまる項目を選ぶようにした。「好きではない・嫌い・普通」と答えた学生のアンケートから理由を抜き出すと、最も多かったのは、「思うように作れない」（38人）「作品に自信がない」（25人）といった項目であった。他、「イメージがわからない」（11人）「苦手な活動が多い」（11人）といった課題に関する項目。「人と比べられることが嫌」（11人）「鑑賞されることに抵抗がある」（10人）といった他者の目を意識

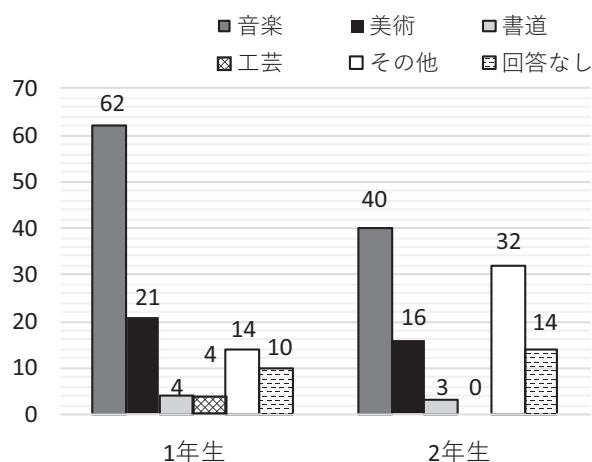


図1. 高校時の専攻科目

した項目が上位を占める結果となった(図3)。

2-3. 好きな造形活動・嫌いな造形活動

造形活動の中で好きな活動の種類は、「折り紙」「工作」といった製作の工程がはっきりしているものが上位を占めた(図4)。嫌いな活動の種類は「描画・イラスト」を挙げた学生が114名と調査人数の半数以上を占める結果となった(図5)。

「折り紙」は最終的な形が決まっていることが多く、作品の個性が大きく出ないのが特徴である。「工作」もアイデアや素材に差は出るものの、作り方が決まっていたり、材料を組み合わせたりすることが主な表現方法であり、技術力の差は大きな問題にはならない。それに反して「描画・イラスト」は、上手下手の概念を意識する要素を含む

ことが多く、製作する者のイメージ力や技術力が問われる課題である。

2-4. 造形活動に関する不安要素

「保育者として造形表現活動を行うことをイメージしたとき、不安に感じることはあるか」の問いには、1年生では「不安に感じることもある」が25人(27%)、「不安に感じることはない」が25人(27%)、「分からない」38人(40%)、無回答6人(6%)という回答だった。2年生では「不安に感じることもある」が29人(29%)、「不安に感じることはない」が37人(38%)、「分からない」32人(33%)であった(図6)。

どちらの学年でも3割程度の学生が、将来保育者になった時の造形に関する不安要素を抱えてい

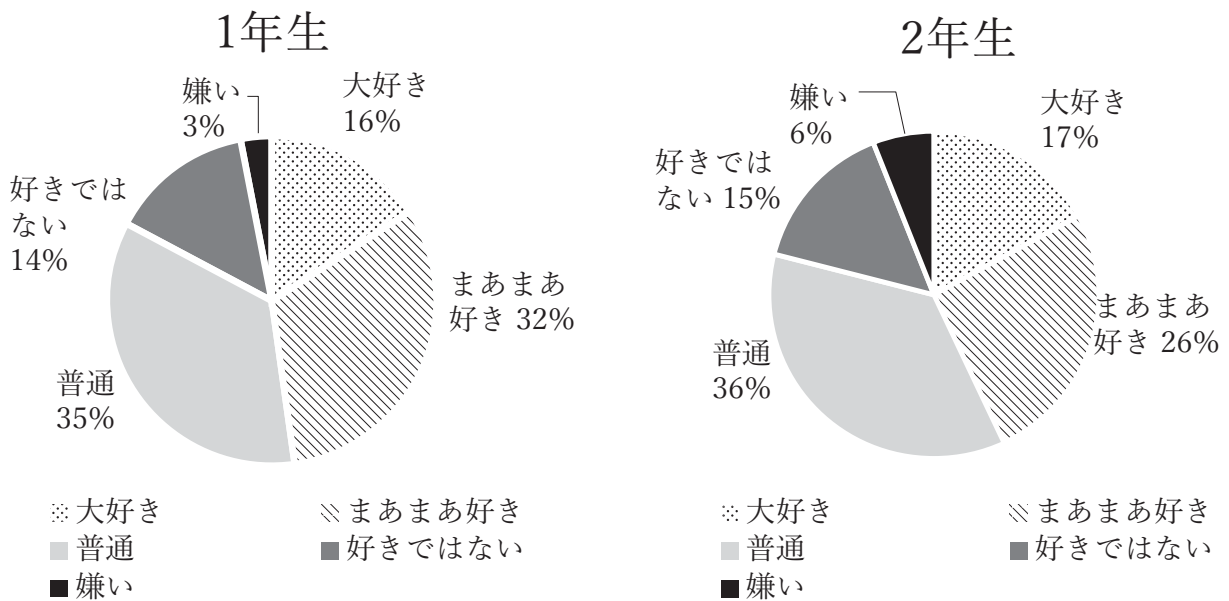


図2. 図工・美術に対する意識調査

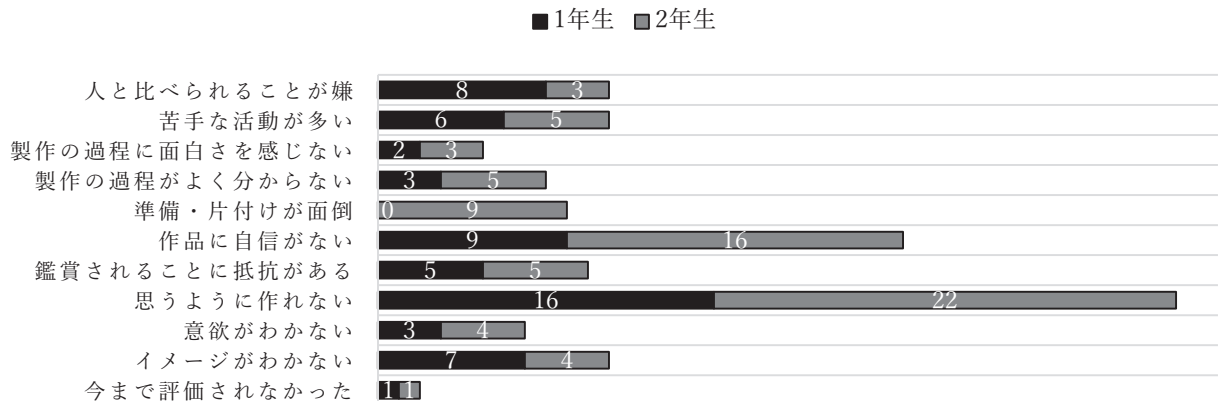


図3. 造形活動(図工・美術)が嫌いな理由

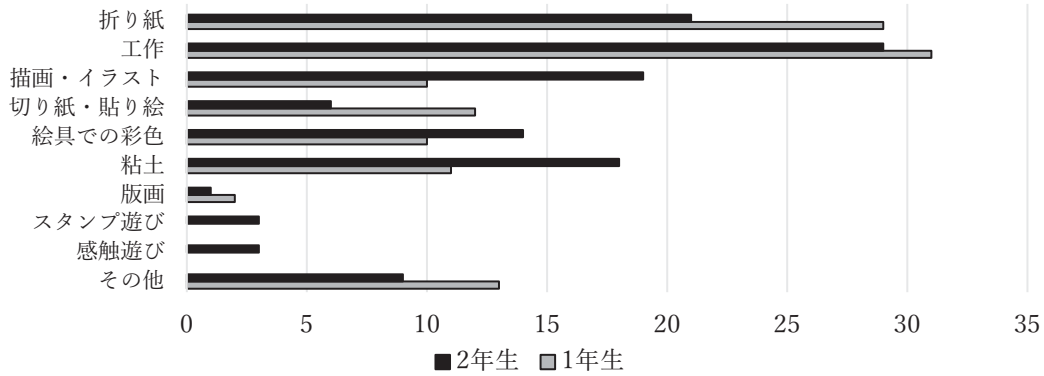


図4. 造形活動の中で好きな活動の種類

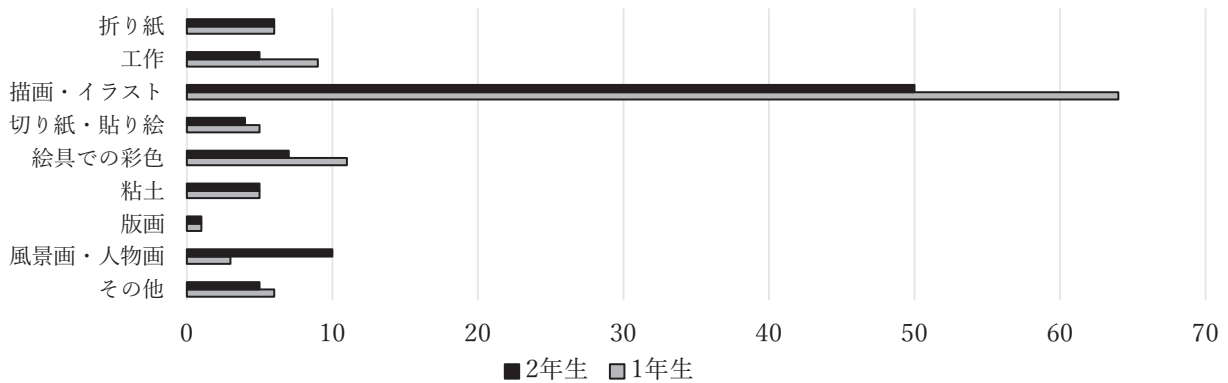


図5. 造形活動の中で嫌いな活動の種類

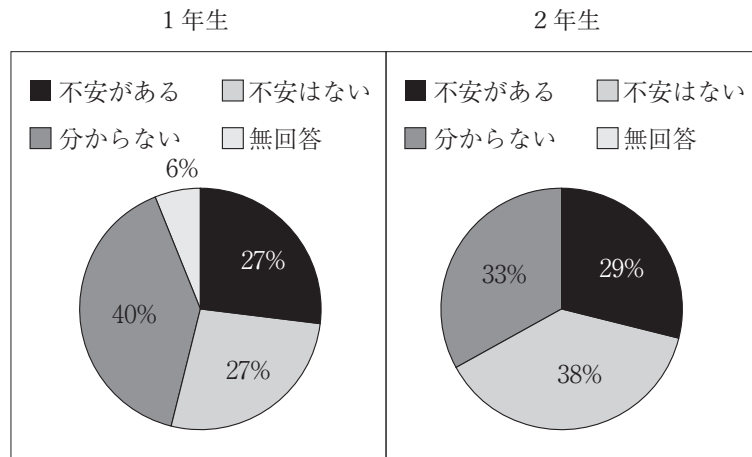


図6. 保育者として造形表現活動を行う時の不安の有無

る。不安要素は自由記述であったため、内容を確認し、筆者がカテゴリー分けを行った(表1)。どちらの学年も、「絵を描くのが苦手」「ちゃんと絵や工作を教えられるか」の2項目が不安要素の上位であることが明らかになった。

3. 考 察

アンケート調査の結果から、4割以上の学生が図工・美術に対して「好き」「まあまあ好き」と

前向きな気持ちがあるのに対して、2割の学生は苦手意識を持っていることが分かった。「普通」と答えている学生の中にも、「嫌いな理由」を挙げてある回答があり、それも含めると苦手意識がある学生は2割以上だと考えられる。そのことが、保育者として造形表現活動を行うときの不安(表1)にも繋がると推測される。その不安は、自身の造形技術に関する事項と、子どもたちへの指導に関する事項の2つの側面がある。1年生は自身

表1. 保育者になった時、造形活動において不安に思うこと

1年生	2年生
<ul style="list-style-type: none"> ●絵を描くのが苦手 (8人) □ちゃんと絵や工作を教えられるか (6人) □子どもへの伝え方が分からない (4人) ●自分が作品を上手く作ることが出来るか (4人) ●壁面装飾が出来るか不安 (2人) □子どもへの声掛けの仕方 (1人) □画用紙での工作の仕方 (1人) ●子どもが喜ぶものを作れるか不安 (1人) ●自分が作品を作るのに時間がかかる (1人) 	<ul style="list-style-type: none"> ●絵を描くのが苦手 (8人) □ちゃんと絵や工作を教えられるか (8人) □子どもたちに楽しさを伝えられるか (3人) □活動の導入や発展の工夫 (2人) □トラブルや失敗したときの対応 (1人) □1年間で様々な活動が出来るか (1人) □子どもが興味を示さないときの対応 (1人) □分かりやすく伝えることが出来るか (1人) □子どもの見本となれるか (1人) □年齢に合わせた活動の違い (1人) □活動が思いつかない (1人)

●自身の造形技術に関する事柄 □子どもとの関わりなど保育に関する事柄

の造形に関する技術的な事柄(表中●)が多いのに対して、2年生ではさまざまな保育に関する事柄(表中□)が不安要素になっている。2年生は保育教育実習を控えた時期であることから、より具体的に保育の場面をイメージしての結果であると推測される。

子どもたちへの指導に関しては未経験なので、不安があるのは当然のことであろう。しかし、自身の造形表現に関する不安は、保育者になったからといって解決するものではない。保育者になる以前に不安要素を解消していく試みが必要だと考える。

造形活動の中で嫌いな活動の種類として1位に挙げられた「描画・イラスト」は、上手下手の概念を意識する要素を含むことが多く、製作する者のイメージ力や技術力が問われる課題である。作品を作る過程や鑑賞において「技術面」でのコンプレックスや苦手意識を感じる学生は多いと推測される。

筆者は、造形活動が嫌いな理由の中で、上位を占めるものを、その内容から3つの要因に分類した。

- ①具現化における上手下手の概念に基づく要因
(「思うように作れない」「作品に自信がない」)
- ②設定課題や授業内容に関する要因
(「イメージがわからない」「苦手な活動が多い」)
- ③他者からの評価や本人のコンプレックスに関する要因
(「人と比べられることが嫌」「鑑賞さ

れることに抵抗がある」)

①～③の要因を解決に導くことが、保育学生の造形に関する苦手意識を解消し、「教材を工夫し、物的・空間的環境を構成していく」保育者の力になると考える。

①具現化における上手下手の概念に基づく要因について

幼児教育の領域表現が目指すものは、「豊かな感性」「自分なりに表現する」「イメージを豊かにする」「様々な表現を楽しむ」ということであり、「上手に」「得意に」ではない。堀内ら(2017)は、「造形の活動を通していかに人間として豊かな感性を持ち、考える力を持ち行動できるか」が幼児教育における造形の最大の目的であり、「造形活動を通じていかに主体的に物(事)を作り出していか、そのマインドの芽生えを促すことこそが、教育における造形の意義である」としている⁹⁾。

しかし、いくら「上手下手」という概念は関係ないとしても、自分が作品を作るうえで「表現したいけど出来ない」「作ったものが良いと思えない」というのは苦手意識に繋がる要因である。幼児教育での領域表現のねらいを理解しつつ、表現したいものを表現できる力を培うことも保育者養成校での造形では必要だと考える。

保育の現場では、文字が読めない子や、言葉では説明するのが難しいことを図で示したりする場

面が多々ある。簡単なイラストが描けることや、物の形を線で表す力の獲得は、保育者としての自信に繋がると考える。表現することの楽しさを感じることを前提に、基礎となる知識・技術の習得を丁寧に行うことが必要であろう。造形活動の中で嫌いな活動の上位である「描画・イラスト」に関しては、「基本的な線画（イラスト）を描ける術」の習得によって苦手意識の軽減が予想される。

①を解決に導くために、授業を行う上で考慮すべき点を挙げる。

ア) 学生の領域表現のねらいの理解。

イ) 上手・下手が顕著に表れにくい課題選び。
(技法遊び等)

ウ) 基本的な線画（イラスト）の描き方を、技術として習得できるようにする。

②設定課題や授業内容に関する要因について

イメージがわからないという要因に関しては、指導者が見本を見せたり、他の学生が作成したものを見せたりする、または発想のヒントになるような事柄を言葉にして伝える、という手立てが考えられる。

澤田（2016）は、児童に工夫することを前提とした「創造的模倣」を行うように伝え、「思い通りに絵が描けない」「アイデアが浮かばない」といった苦手意識を軽減させることに成功している¹⁰⁾。浦崎ら（2019）は、図画工作の授業での具体的な教師の関りとして「イメージや発想段階で困っている児童には言葉によって創造を膨らませられるように会話を中心として関わること」と述べている¹¹⁾。

筆者の造形授業の経験から、作品に自信のない学生の作品は、「見本」に似通ってしまう傾向がある。見本のパターンを何種類か準備したり、全く異なった発想の見本を用意したりするなど、発想が一つに偏ってしまわないような工夫が必要である。

また、保育者養成校での造形表現では、“どのような素材を使って作品を仕上げるか”といった素材選択の自由度や、素材理解が重要だと考える。保育者の素材に関する知識と経験が、領域表現 2

内容「(5) いろいろな素材に親しみ、工夫してあそぶ」¹⁾を支える力となるからである。また、多様な素材の特性と扱い方を知り、その素材を使って表現する楽しさを味わうことが、造形活動に対する苦手意識を軽減することにもつながると推測される。

②を解決に導くために、設定課題や授業の進め方として考慮すべき点を挙げる。

エ) 発想のヒントになるような、何パターンか
の見本を見せたり、言葉で課題のイメージを膨らませたりする。

オ) 他者の作品を見る時間を作り、そこで得たアイデアを自分の表現に活かせるようにする。

カ) 素材の特性を知り、表現の楽しさを味わうために、多様な素材を選べるようにする。

③他者からの評価や本人のコンプレックスに関する要因について

学生のこれまでの経験では、作品を個人のものとして掲示され、鑑賞される機会がほとんどであったと推測される。幼児の造形活動では、個人の作品を壁面装飾として飾り、環境の一部として鑑賞することも多いことから、授業のなかでもその形態を取り入れることが有効だと考える。

個人の作品として飾られるのは恥ずかしいが、壁面として大きな作品の一部になることは気にならないといった心理面での効果もあると推測される。また、他者と比較することよりも、多様な表現を知り、他者のアイデアを知るきっかけになれば今後の造形表現にプラスになるであろう。一人一人の異なる表現があるからこそ美しく面白味のある壁面が構成されるという事実に気づき、保育者として多様な子どもの表現を受け止める意識の育ちになればと考える。

指導者の評価においては、「丁寧さ」や「発想の豊かさ」「素材の工夫」「表現の面白さ」など保育に必要とされる点を評価の対象とし、技術的な上手下手に重きを置かないことも必要である。授業の中で、何度も学生と意識の確認を行うことが重要だと考える。

③を解決に導くために、評価や鑑賞に関して考

慮すべき点を挙げる。

- キ) 壁面装飾として作品を飾り、大きな作品の一部として鑑賞できるようにする。
- ク) 授業での評価の観点は、保育者として必要な「表現力」であることを伝え、学生との意識確認を行う。

4. 造形表現に関する意識調査のまとめ

本稿(Ⅱ)では、造形表現に関するアンケート調査を行い、造形に関して保育学生が抱える課題を挙げた。また、苦手意識の要因となっている事項を探り、今後の保育学生への造形指導にどのように活かしていくか示唆を得ることを目的とした。得られた結果を以下に示す。

- (1)学生の苦手意識の要因として3つの要因が明らかになった。①具現化における上手下手の概念に基づく要因。②設定課題や授業内容に関する要因。③他者からの評価や本人のコンプレックスに関する要因。
- (2)造形表現に関する「苦手意識」は、保育者として造形表現活動を行うときの不安にも繋がると推測される。その不安は、自身の造形技術に関する事項と、子どもたちの指導に関する事項の2つの側面がある。
- (3)①～③を解決するために、造形表現授業を行う上で考慮すべき点を挙げる。
 - ア) 学生の「領域表現」のねらいの理解。
 - イ) 上手・下手が顕著に表れにくい課題選び。(技法遊び等)
 - ウ) 基本的な線画(イラスト)の描き方の習得。
 - エ) 発想のヒントになるような、何パターンかの見本を見せたり、言葉で課題のイメージを膨らませたりする。
 - オ) 他者の作品を見る時間を作り、そこで得たアイデアを自分の表現に活かせるようにする。
 - カ) 素材の特性を知り、表現の楽しさを味わうために、多様な素材を選べるようにする。
 - キ) 壁面装飾として作品を飾り、大きな作品の一部として鑑賞できるようにする。
 - ク) 授業での評価の観点は、保育者として必要な「表現力」であることを伝え、学生との意

識確認を行う。

Ⅲ. 授業実践

造形表現に関する意識調査により、保育学生の造形表現に対する苦手意識の要因が明らかになった。筆者が考察した考慮すべき事項(ア)～(ク)を授業構成や指導内容に活かし造形表現授業を行う。

1. 授業方法

1-1. 実施授業、対象

- A. 2年生前期授業「子どもの絵と製作(指導法)」
対象人数100名
- B. 1年前期授業「子どもと表現(造形)」
対象人数94名

1-2. 授業内容

前出の(ア)～(ク)を考慮し、授業構成を行う。

- A. 「手形アート 蝶をつくろう」(全2回)

1回目の授業で、見本を示す。(手形の色合い、装飾の用具、蝶の体の部分の素材を異なるもので作成したもの3パターン。)出来上がりをイメージしながら、色合いを決め手形をスタンプする。2回目の授業までの1週間で、素材を集める。例として、モール、フェルト、写真、ストローなどを挙げるが、どのようなものでも使用して良いこととし、接着の方法も各自で考える。羽部分の装飾と体部分の製作をし、教室外の壁面に飾る。

- B. 「雨の日のおきにいり」(全2回)

クレヨンと水彩絵の具を使った「はじき」の技法遊びからの展開として、傘を作成する。傘の模様を切り取り、裏からさまざまな素材を貼りつけ作品に変化をつける。コーヒーフィルターに水性ペンで描き水をたらず「にじみ」の技法を体験し、傘をもつ人形を作る。乾燥させる1週間で、傘の裏側に貼る素材選びの時間とし、製作したものを壁面に飾る。

「①具現化における上手下手の概念に基づく要因」に関して考慮する点。

- ア) 学生の「領域表現」のねらいの理解。

イ) 上手・下手が顕著に表れにくい課題選び。
(技法遊び等)

領域表現のねらいに関しては、前期初回の授業で「幼児教育において育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」¹¹⁾にも触れながら講義を行った。その中で、領域表現のねらいのキーワードとして「豊かな感性をもつ」「自分なりに表現する」「イメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」という言葉を挙げ、「上手に」や「良いものを作る」といった技術的な言葉は出てこないことを確認した。

Aの授業では“描く”ではなく、自身の手を蝶の羽に見立てる方法をとる。土台となる羽の形に上手下手が表れることは少ない。また、手形アートは、手に触れる絵具の感触を楽しんだり、幼児の成長の記録として活用したりするなど保育の中でよく使用される技法である。

Bの授業では、「にじみ」「はじき」の技法遊びの延長として作品を制作する。描く技術より工作の要素を多く含んだ活動である。

「⑥設定課題に関する要因」に関して考慮する点。

エ) 発想のヒントになるような、何パターンかの見本を見せたり、言葉で課題のイメージを膨らませたりする。

オ) 他者の作品を見る時間を作り、そこで得たアイデアを自分の表現に活かせるようにする。

カ) 素材の特性を知り、表現の楽しさを味わうために、多様な素材を選べるようにする。

イメージが湧かないという要因を解消するために、見本のパターンを数種類用意する。また、他者の作品を見て参考にして良いことを伝える。澤田(2016)は、図工に苦手意識をもつ児童の研究において「これまでの『見てはいけない』『真似してはいけない』という指導法が、表現したい思いはあるのに描き方が分からないまま思いを実現できず、または納得のいく作品が出来ずに、児童の苦手意識を生じさせていた一つの要因であった」と述べている¹⁰⁾。

幼児教育では様々な素材を扱い、多様な体験か

ら学ぶ環境を整えることが大切である。そのために、保育者が多くの素材の種類や特性・応用の手段を知ることは、子どもの表現を支えるうえで必要である。製作を行う工程で、表現のためにはどのような素材が適しているかを自ら考え、接着の仕方などを工夫することは、保育者としての力となると推測される。

「⑦他者からの評価や本人のコンプレックスに関する要因」に関して考慮する点。

キ) 壁面装飾として作品を飾り、大きな作品の一部として鑑賞できるようにする。

ク) 授業での評価の観点は、保育者として必要な「表現力」であることを伝え、学生との意識確認を行う。

アンケート記述により、これまで個人で描いた作品などを比較されたり、自身で他の作品と比べてきた経験が、苦手意識に繋がっている学生がいることが明らかになった。しかし、製作した作品を人には見せたくないという姿勢は、子どもの表現を支える保育者として適切ではないと考える。今回の製作では、作品を壁面装飾として掲示する。楨(2008)は、壁面デザインを行う上で「表現を豊かにするというねらいから、保育者も子どもも表現し伝えあう場として壁面をとらえる」とし、「素材や技法との出会い」「自己効力感・達成感」「他者理解」の3側面の保育効果について述べている¹²⁾。

1-3. 学生による授業後アンケート

A、B共に、製作した作品を壁面装飾として飾り、鑑賞した後にアンケート調査を行い、授業の評価とする。質問内容は以下の3項目とする。

- (1) どのような気持ちで作ったか。
- (2) 工夫したところはどこか。
- (3) 皆の作品が集まったのを鑑賞して、どう感じるか。

また、前期授業終了後に、造形表現に対する好き・嫌いについてのアンケート調査を行い、学生の意識の変化を考察する。



写真1. 制作の様子



写真2. スプーンで作られた作品

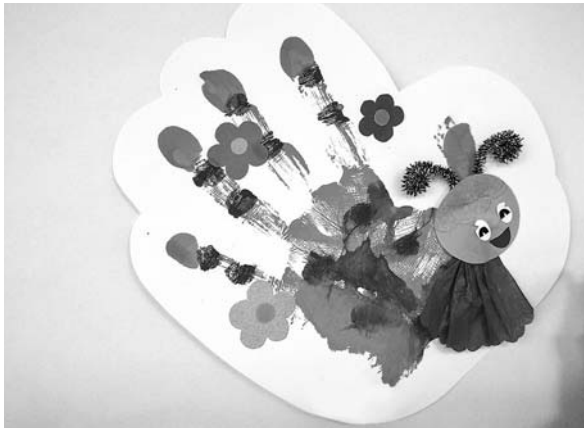


写真3. お花紙やモールを使った作品



写真4. 付けまつげを使用した作品



写真5. 起毛布やボタンを使用した作品



写真6. 写真を加工した作品

2. 結 果

2-1. 授業実践

A. 「手形アート 蝶をつくろう」

幼児の造形活動では単色スタンプ台を用いることが多いが、今回はスタンプ台を使用せず、絵の具を筆で直接手のひらに塗り、画用紙にスタンプする方法をとった。色は何色でも使用して良いこととし、スタンプの色味を決める際も、何を装飾

するのかを考えながら製作を進めるよう伝えた。

装飾に関しては、1週間の準備期間があったため、様々な素材を考え準備してくることが出来たと考えられる。お花紙、セロハン、モール、ボタン、布、レース、ビーズ、マスキングテープ、プラスチックスプーン等、身近な素材で工夫して製作する姿が見られた(写真1)(写真2)(写真3)。写真の加工をしたり、付けまつげを装飾したり、



写真7. 「はじき」の傘と「にじみ」の人形



写真8. 様々な「カエル」の作品



写真9. 蝶の手形アート壁面掲示



写真10. 「雨の日のおきにいり」壁面掲示

ラメ入り糊、起毛布を使用するなど、通常あまり製作素材として用いない素材を使用した作品もあった（写真4）（写真5）（写真6）。

B. 「雨の日のおきにいり」

平面技法「はじき」「にじみ」を体験した後、傘の形を切り取り、型を抜いた箇所に様々な素材で装飾を行った。セロハン、折り紙、包装紙、エアーマット、リビック紙等、色合いを考えたものや素材の透け感を活かしたもの等、個性的な傘ができた（写真7）。

コーヒーフィルターを使った人形は、カエルをモチーフにしたものが目立った（写真8）。製作の最初に見せた見本をカエルにしたことが要因であると、推測される。しかし、表情やポーズ、服

の色や模様などの工夫がされており、「創作的模倣」¹⁰⁾がなされていたと考える。

2-2. 授業後アンケート結果

学生にアンケート用紙を配布し、自由記述によって製作を振り返る時間とした。

アンケートの記述には、苦手要因③「思うように作れない」「作品に自信がない」④「イメージがわからない」「苦手な活動」を感じさせるような感想はなく、各自イメージしたものをどのような色や形、素材で作上げていくかの記述がされていた。「わくわくしながら」「個性が出るように」「材料を選ぶのが楽しかった」「子どもの気持ちになって」等のキーワードが含まれるものを例に挙げる（表2）（表3）。

表 2. アンケート記述 (授業 A)

(1)どのような気持ちで作ったか。
<ul style="list-style-type: none"> ・作品の材料を集めるときから、どのような蝶を作るかわくわくしながら行えた。 ・自分の個性が出る作品にしたいと思った。 ・人と違うことがしてみたいという気持ちで作った。 ・子どもたちが見て、嬉しくなる作品になるように。 ・子どもの頃に戻ったようにワクワクしながら想像を膨らませて作った。 ・たくさんの材料の中から自分の好きなものを選べたのでわくわくしながら作った。 ・製作が苦手なので、友達の作品を参考にしながら作り、徐々に出来上がってくると完成が楽しみになった。 ・子どもだったら、どんな材料を使うかを意識しながら製作した。 ・自分がどんな蝶を作りたいかを考え、使いたい色や道具をたくさん使おう、という気持ちで作った。
(2)工夫したところはどこか。
<ul style="list-style-type: none"> ・毛糸などで紙を作り、天使をイメージした。 ・蝶が目立つように、後ろに画用紙を貼った。 ・触覚のモールのジグザグした形を工夫した。 ・手形と装飾の色合い。 ・お花紙をアレンジして洋服などを作った。 ・子どもらしさが出るように、クレヨンを使った。 ・いろいろな材料を用いカラフルに仕上がるようにした。 ・身近な材料で洋服を作った。

表 3. アンケート記述 (授業 B)

(1)どのような気持ちで作ったか。
<ul style="list-style-type: none"> ・絵は上手じゃないけれど、上手になった気分だった。 ・色がにじんだりはいじたりする感じがとても不思議で楽しかった。 ・きれいな色合いで出来上がるように考えながら作った。 ・保育の現場で子どもと一緒にやってみたい。 ・色を塗り終わって型紙を取るとき、わくわくした。 ・技法遊びから簡単に作品が出来たので、保育者になったときにやってみたいと思った。 ・淡いきれいな色が広がって、子どもたちが喜びそうだったと思った。 ・作りながら、どんな柄が出来るかわくわくできて楽しかった。
(2)工夫したところはどこか。
<ul style="list-style-type: none"> ・人とかぶらないように、服をズボンにして工夫した。 ・雨の雰囲気にあうように、てるてる坊主と青のイメージで製作した。 ・水をたっぷり含ませ、淡い色でやさしい色合いにした。 ・様々な素材を使い、楽しい傘になるよう工夫した。 ・大きな傘で雨宿りをしている様子を表現した。

表 4. 壁面掲示を見ての感想 (授業 A)

<ul style="list-style-type: none"> ・カラフルな色が多く、本当にかわいいと思った。みんなで一つのもを作り上げたという感覚になり、楽しかった。 ・同じ蝶が一つもなくて、いろいろな蝶が飛んでいるのを鑑賞していると、アイデア次第でもっと個性的な蝶が出来ると感じた。 ・ひとつひとつに個性があり、自分が思いつかなかった工夫が沢山で、とても勉強になった。見ていたら笑顔になれる素晴らしい作品になったと思う。 ・上手い下手やセンスの問われる作品でなく、保育では「子どもの個性を引き出すこと」を第一に考えて一人一人の個性を認めることが大切だと感じた。 ・壁面を通して自分以外の作品を見ることで、自分には考えつかないアイデアや工夫を知り良い刺激になった。一人一人の個性が詰まった素敵な壁面だと感じた。 ・同じ作り方をしている、手形の色の付け方や飾りつけがそれぞれ違って面白く感じた。他の人の作品を見て、いろいろな発見も出来てよかった。 ・何気なく通っている廊下がとても華やかになったし、一気に春らしくなったと感じた。100匹以上の蝶が集まっても、どれ一つとして同じ蝶はなく、個性にあふれていて面白く感じた。この壁面を通して、保育者目線と子どもの気持ちのどちらも感じることが出来たと思う。

表 5. 壁面掲示を見ての感想 (授業 B)

<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの傘の模様や形に個性が出ていて、自分の考えつかないようなアイデアの作品もあって参考になった。鑑賞するのがとても楽しかった。 ・梅雨は好きな季節じゃないけれど、みんなの作品を見て“雨の日も少しウキウキ”という思いがしてきた。 ・季節に合わせて作品を作ることでその季節を楽しめると思った。 ・一つ一つに個性があって、じっくり見ると面白いし、全体を見渡すと賑やかでとても楽しく、近くで見ても遠くから見ても楽しめる作品だと思う。 ・自分になかった発想を知ることができた。いろんな人の違いを面白いと思い、表現する楽しさを子どもたちに伝えたい。 ・全員の作品が集まることで、色もカラフルになり、見る人がとても楽しく感じると思った。 ・私だけの作品だと恥ずかしいが、皆の作品があれば全然気にならないし、それぞれ違って良いなと思った。 ・似たようなデザインでも、切り抜いた部分に貼った素材によってイメージが全く違ってくると感じた。 ・梅雨のジメジメした時期ではあるが、カラフルな明るい作品は皆を元気に明るくさせてくれると感じた。 ・自分はいつもお手本を真似して自分なりに工夫していたけれど、他の作品を見て、これからはもっと自分の個性を出した作品を作ってみようと思った。
--

「皆の作品が集まったのを見て、どう感じるか」の質問には、長文の記述がなされていた(写真9)(写真10)(表4)(表5)。「みんなで作り上げた」「自分では思いつかなかったアイデア」「いろいろな発見」「個性」という記述がみられた。また、「個人での作品には自信がないが、皆で作る作品の一部としてなら気にならない」「全体の一部だからこそ目立ちたい」といった記述もみられた。

2-3. 前期造形授業後の学生の意識の推移

授業A・Bのみに限らず、学生の苦手意識を解決するために、造形表現を行う上で考慮すべき点を取り入れながら前期の造形授業を行った。授業

の時間配分から、学生の製作のスピード、イメージを形にしていく力の向上が見て取れた。作品を壁面掲示に仕上げることに慣れ、「ここが寂しい感じがする」など全体のバランスを考えながら掲示する学生の姿も見られた。(写真11)(写真12)

前期最後の授業で、授業1回目の調査と同じ様に、造形表現に対する「好き」「まあまあ好き」「普通」「好きではない」「嫌い」を選択するアンケート調査を行った。(図7)(図8)

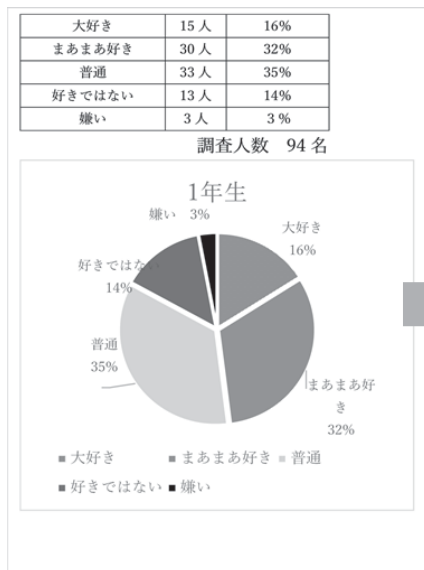
欠席者がいたため調査人数は異なるが、1年生では「大好き・まあまあ好き」と答えた人数が45人(48%)から66人(73%)に増加した。また、2年生に関しても、「大好き・まあまあ好き」と



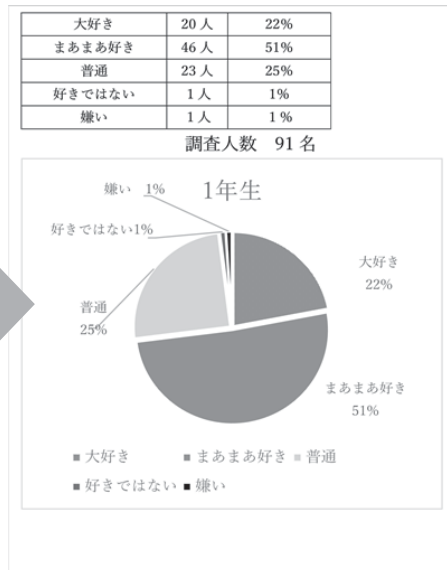
写真11. デカルコマニー・フロッターージュの壁面掲示



写真12. いろいろな素材を使った造形の壁面掲示

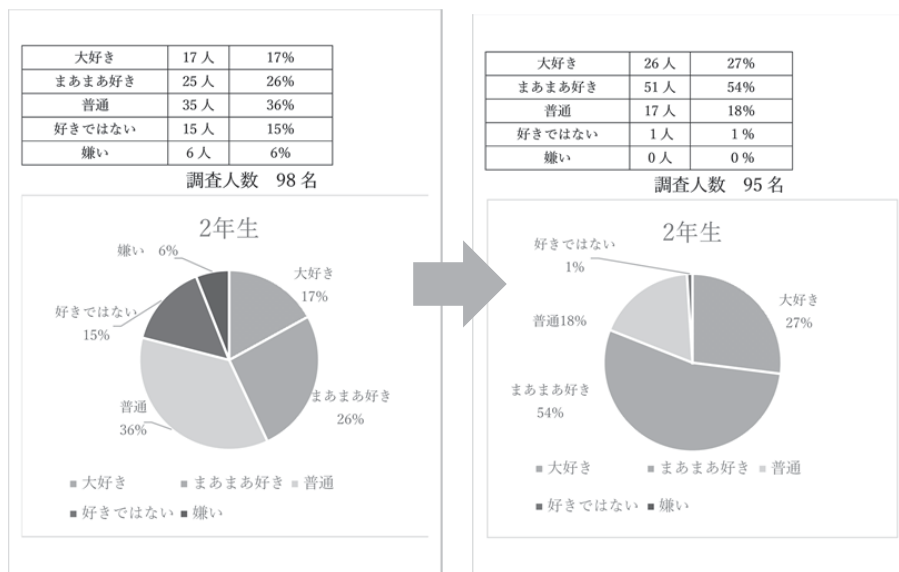


授業1回目の意識調査



授業15回目の意識調査

図7. 1年生の造形表現に関する意識調査



授業1回目の意識調査

授業15回目の意識調査

図8. 2年生の造形表現に関する意識調査

答えた人数が42人（43%）から77人（81%）と増加した。1年生では、「好きではない・嫌い」と答えた人数は16人（17%）から2人（2%）と減少し、2年生においても21人（21%）から1人（1%）と減少した。

3. 考 察

今回、造形表現に関する意識調査から授業で考慮する点を挙げ、保育学生が自ら考え、工夫し、表現しようという意欲を育てることを目的とした授業を行った。学生の苦手意識要因と授業後アンケートから授業内容を考察する。

①具現化による上手下手の概念について

授業Aでは手形を土台とし、描画の要素を極力含まない活動としたため、最初から手が止まることなく活動を行えたと考える。技術的な上手下手ではなく、素材の工夫に重点を置いて説明をしたため、「どのような素材を使って作品を仕上げるか」という素材の選択の自由度が、学生の表現しようという意欲につながったと推測される。

授業Bは「はじき」「にじみ」の技法遊びから作品製作につなげていった。技法遊びは、用具の使い方や選び方が重要であり、色の選び方に個性は現れるものの、製作への苦手意識にはつながり

にくいと考えられる。描画の要素は少なく、上手下手の差が顕著に現れることはないが、作品の形や使用する素材に工夫を凝らすことで個性的な作品に仕上げた学生もいた。

幼児教育における領域表現「ねらい」については、造形活動を行いながら自らの体験を通して理解していくことが望ましいと考える。そのために、毎回の活動の最初に領域表現「ねらい」の確認を行うことが大切である。

⑥設定課題について

イメージが湧かないという要因を挙げていた学生がいたため、見本を準備し、作る手順も見本を見せながら行った。造形活動を行う際、作品が見本に似たものに偏ってしまう経験から、3パターンの見本を準備し、イメージが偏らないようにした。何を作ったらよいか分からないといった姿は見られなかったが、特に「雨の日のおきにいり」では、見本の“カエル”をモチーフとした作品が多数見られ、自分で個性的なモチーフを考える学生と、お手本に工夫を加えて自分らしさを表現する学生の差が表れた。

他者の作品を見てヒントにして良いことは、イメージのわからない学生にとって有効な手立てであったと考える。製作の途中に、席を立てて友人

の作品を見たり、作り方を尋ねたりする場面も見られた。全て真似をする姿は見られず、良い作品を参考にして自分なりに工夫をする姿が見られた。

各自で準備する素材のほかに、カラーポリ袋、お花紙、セロハン、スズランテープなどを教室に準備し、自由に使ってよいこととした。上記の素材は、個人で多様な色数を準備することが難しいため、使用したことがないという学生もいた。作品を作る過程で、当初のデザインから変化していくことや、考えて用意していた素材ではイメージ通りに製作できなかった場合のためにも、様々な素材を準備しておくことは必要である。アンケートにも「材料を選ぶのが楽しかった」「どんな素材で作ろうか、わくわくした」などの記述があったことから、素材選択の幅が広いことは作品製作への意欲に繋がる可能性があると考えられる。

◎他者からの評価や本人のコンプレックスについて

今回掲示に使用した教室外壁の一面は、廊下を通る学生や教員の目にもとまる場所である。自分の好きな場所に掲示して良いとしたが、下の方の目立たない場所を選ぶ学生や、友人たちと密集させて掲示する姿も見られた。全体のバランスを考えながら掲示することも保育者として必要なスキルであることを、今後の授業で伝える必要がある。

壁面掲示をした後は、友人と作品の前で写真撮影をしたり、他者の作品を眺めながら「これすごいね」「かわいい」など褒めあう姿が見られた。他者の作品を壁面として鑑賞することで、多様なアイデアを知り、様々な表現方法に気づいた学生がいたと推測される。

授業A、B後アンケートの記述、前期授業後の造形表現に対する学生の意識の推移調査により、造形表現授業において考慮すべき事項ア)～ク)は、学生の苦手意識解消に有効であると考えられる。

Ⅳ. まとめ

本稿は、以下の2点を目的とした。

- ① 学生に造形表現に関する意識調査を行い、造形に関して保育学生が抱える課題を挙げる。

また、苦手意識の要因となっている事項を探り、今後の保育学生への造形指導にどのように活かしていくか示唆を得る。

- ② 調査結果から考察された事項を考慮し、学生自身が自ら考え、工夫し、表現しようという意欲・姿勢を育てる授業を実践し結果を得る。得られた結果を以下に示す。

(1)技法遊びを題材にし、素材の工夫によって表現の幅を広げることは、「上手・下手」の概念によって造形を苦手と感じている学生の表現しようという意欲に繋がると推測される。

(2)見本を数パターン提示したり、他者の作品を見たりしても良いことは、イメージの手助けとなる。全てを模倣するのではなく、自分の表現を加え、更に納得のいくものにしようという姿勢が見られた。

(3)作品を、全体の一部として壁面に飾られることには抵抗を感じない学生が多いと推測される。壁面装飾としての掲示は、表現方法やアイデアの多様さに気づくきっかけとなると考える。

(4)ア)～ク)の点を考慮しながら授業を行うことで、学生が自ら考え、工夫し、表現しようという意欲・姿勢が、アンケート結果より見て取れた。

保育学生への調査から苦手意識を解決する手立てを考察し、授業を実施することで、保育者養成校の造形表現指導で考慮すべき点が明らかになった。図工、美術で学生が感じてきた「術」に重きを置いた指導ではなく、保育者として幼児の表現を支える幼児教育のねらいに沿った表現の知識と技術の獲得が必要である。

今回の授業では、上手下手が表れにくい課題を選んだため、「ウ)基本的な線画(イラスト)の描き方の習得」には触れていない。今後、基本的な技術の習得として、授業の中で取り組んでいきたい。

保育者になるためには、表現することの楽しさを感じることに、保育者の知識・技術の獲得はどちらも欠かせない事柄である。造形表現が好きな学生は、より表現することの楽しさを知り、表現の幅を広げていけること。苦手意識を持っている

学生は、苦手意識を克服しながら、子どもの育ちを支える保育者としての資質を習得できることが理想である。幼児の造形は、描画、感触あそび、平面構成、工作、粘土など多岐にわたる。今回の授業実践で包括できなかった課題も含め、カリキュラム全体を通して、学生自身が自ら考え、工夫し、表現しようという意欲・姿勢を育てる授業内容を検討することを今後の課題とする。

註

- 1) 『平成29年告示幼稚園教育要領』チャイルド本社 (2017) p. 7, pp.20-21, pp.48-49, pp.87-88
- 2) 中島法晃 (2019) 「造形指導に不安を抱える保育者にとって有効な表現素材と活用のあり方～保育者研修会のワークショップ事例を通して～」『岐阜女子大学紀要』 p.61, P.65
- 3) 横英子 (2016) 「保育のなかの造形カリキュラムを見直す保育者研修プログラムの開発」『美術教育』 NO.300p.12
- 4) 上田慎二、石垣倫生 (2019) 「絵画・造形授業における学生の反応の考察－造形表現指導の学生の製作の意識の諸問題について－」『鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部紀要 人文社会・社会科学編』第2号 p.315
- 5) 降旗隆 (2016) 「図画工作・美術への〔苦手意識〕解消の試みと成果－目指すべき造形美術教育を実現させるために－」『山形大学紀要 (教育科学)』第16巻第3号 p.193
- 6) 降旗孝 (2017) 「図画工作・美術への苦手意識をつくらない教育内容－小学校教員養成課程における教育コンテンツ－」『山形大学紀要 (教育科学)』第16巻第4号 p.286
- 7) 香月欣浩 (2018) 「幼児期のものをつくることや絵を描くことに対する他者からの評価が、その後の造形表現の「好き」「嫌い」に与える影響－保育士養成課程の学生への調査結果を保育実践に役立たせるために－」大学美術教育学会『美術教育学研究』第50号 p.152
- 8) 泰田久史 (2018) 「学生が意欲的に取り組める図画工作授業の工夫について～苦手意識を克服する視点～」『宮崎学園短期大学紀要』 Vol.10p.212
- 9) 堀内秀雄、杉本亜鈴 (2017) 「造形指導の現状と大学授業の実際から見る幼稚園教諭養成大学 造形カリキュラムのあり方」『東京成徳短期大学紀要』第51号 pp.78-79
- 10) 澤田直明 (2016) 「小学校図画工作における『創造的模倣』の効果－児童の苦手意識の軽減を図り、意欲的に自己の表現を追求する姿を目指して－」『上越教育大学学校教育実践センター養育実践研究』26, pp.121-126
- 11) 浦崎渉、隈敦 (2019) 「図画工作科の学びにおける児童の模倣行動と教師の関り」大学美術教育学会『美術教育学研究』第51号 p.71

12) 横英子 (2008) 『保育をひらく造形』萌文書林 p.160

付録1. アンケート調査用紙

1. 小さいころから、図工・美術は好きでしたか？	大好き・まあまあ好き・普通・好きではない・嫌い
2. どのような活動が好きですか？ また、どのような活動が苦手と感じますか？ 例) 好きな活動 …絵を描くこと/折り紙や切り紙 苦手な活動 …粘土や工作/絵の具を使う製作	好きな活動 () 苦手な活動 ()
3. 今までで、心に残っている造形表現活動(図工・美術)がありましたら教えてください。	・
4. 問1で「好きではない・嫌い」と答えた方、その理由は何だと思えますか？あてはまるものに○を付けてください。 (複数回答可)	・作品のイメージが湧かない ・思うように作れない(描けない) ・制作の過程がよく分からない ・意欲が湧かない ・作品に自信がない ・製作の過程に面白さを感じない ・準備片付けが面倒に感じる ・作品を鑑賞されることに抵抗がある ・小さい頃から評価されなかった ・作品を人と比べられることが嫌 ・好きな活動より苦手な活動の割合が多い ・その他 ()
5. これから保育者を目指すにあたって、造形表現においてどのようなことを学びたいですか？簡単なことでもかまいません。ご記入ください。	
6. 保育者として造形表現活動を行うことをイメージしたとき、不安に感じることはありますか？あれば、それはどういった事柄が教えてください	ある ・ ない ・ よく分からない ↓ ()
●学年 □1年 □2年 ●高校の選択科目 □美術 □音楽 □書道 □工芸 □その他	